

2012/4/12

## 柏の景気情報（平成24年3月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成24年3月分）

○ 調査期間 : 平成24年3月19日 ~ 3月23日

○ 調査対象 : 柏市内171事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	171	108	63.2%
建設	47	31	66.0%
製造	36	23	63.9%
卸・小売	49	34	69.4%
サービス	39	20	51.3%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成24年3月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIは大幅に改善するも先行き不透明 ▶

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.3(前月水準▲33.0)となり、マイナス幅が12.7ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べてマイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲35.2(同▲52.7)、サービス業▲10.0(同▲23.5)、建設業▲9.6(同▲20.0)、製造業▲21.7(同▲26.0)である。

【建設業】からは、「仕事の受注は増えているが年度末の為か作業員が不足している。現場管理の人間も不足している」(塗装工事業)、「原油価格の高騰によるガス料金への影響が発生。節電意識の高まりによる省エネの影響もガス販売量に影響が出る」(ガス業)、「公共工事において適正な価格が設定されているか問題である」(塗装工事業)、「景気の悪い時に原発事故のダブルパンチで当分期待できず」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「原油価格の見通しが全く不透明で、今後の原材料価格の更なる高騰が不安材料である」(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)、「売上高はやや増加しているが原油高による運搬費用の負担増加(ガソリン等の値上がり)がある。又今後経費負担増加(社会保険料や電力料金)が見受けられ、採算性の悪化が考えられている」(一般産業用機械・装置製造業)などのコメントがあった。

【卸小売業】からは、「前年は震災のあった影響で営業時間の短縮も免れない状況であったのでそこから比べると売上は50%増程の推移。気候が寒い影響で春物衣料の動きが例年より遅くなっています」(百貨店)、「景気の先行き感が悪く感じる。消費税の増税、高齢者・少子化問題、年金への不安等から消費は上がらないだろう。これからもっと独自のサービス、独自の仕入れ方法が急務である。消費行動が変わる大きな節目の年になる予感がする」(各種食料品小売業)、「景気が悪化して改善が望めない。売り上げが毎回減少で毎月色々な改善策をやってはいるが減少のみです。毎日他の店舗に納入があるので、採算は不変。商店会でもイベントを作ってやっているが結果が出ない」(食肉小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「アルバイトが退職し従業員が不足しています。若い学生アルバイトが集まらない」(酒場・ビヤホール)、「ビジネス需要が大半を占めている事を考えるとビジネスは動いているものの各企業共に経費は抑えられていると思われる。重油(燃料)や野菜の値上げが利益を圧迫し始め、4月からの電気の値上げも気になる場所である」(ホテル)、「顧客からのお問い合わせが減っているが、物件買い取り依頼は多くなっています。やはり放射能に対する不安が影響しています。早く安心できるような対策を願っています」(不動産管理業)などの声が寄せられた。

◎天候の影響

各業種から、「年度末という事もあり仕事量は問題なかったが天候不順により経費がかさみ思ったように利益は出なかった」(塗装工事業)、「3月度、初旬から入店客数は前年を上回る推移となったものの、気温がなかなか上がらず、主力の衣料品で春物購入マインドが低く、羽織り物が中心の動きとなり売上高は伸び悩んだ」(その他の各種商品小売業)、「寒さが続き、これまでの低温や日照不足など天候不順の影響もあり生産者は順調な育成ができず市場取引において主要品目の高値が続いています。また3月は昨年の東日本大震災と原発の起こった月であり1年経過したことにより若干の売上高の増加は見込まれます。しかし柏市内の生産物では風評被害が完全に取り除かれていないようです」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

◎震災の影響

各業種から、「今年度の忙しさは震災の影響で工事の進行遅れによる忙しさ、業者職人不足による忙しさだったようでもある。次年度は物件も小さく件数も減っている見積もり状態」(その他の職別工事業)、「昨年は震災の影響で食品が特需のように伸びましたが今年はそのような事は無く昨年と比較すると食品が特に悪い。昨年衣料品が大きく悪化したのが春物が気温が低い事もあり今年も期待できない。春物はもう終了のタイミングになっている」(その他の各種商品小売業)、「昨年は震災がありその後の消費低迷が続いたので今年は前年比増を期待したが見込みが外れた」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

◎材料高騰

各業種から、「材料の単価の上昇著しく採算が合わない。予算が厳しく業界は景気の上昇に期待しているが先行きは暗い」(電気工事業)、「問題点として、材料価格の上昇と電力費の値上げが経営を圧迫。一方で4月以降多少の受注増の情報あり」(金属素形材製品製造業)、「各原材料価格がアップした為、利益に影響出ている。電気料金値上げが先(10月)になり、とりあえずは一安心。先行きの見通しは5月までは良好だが、6月以降が全く見えてこない」(紙製容器製造業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
10月	▲25.0	▲10.7	▲32.0	▲34.2	▲19.0
11月	▲30.7	▲7.6	▲39.1	▲44.4	▲26.3
12月	▲31.3	▲28.0	▲32.0	▲37.5	▲25.0
1月	▲28.9	▲10.3	▲16.6	▲44.4	▲40.0
2月	▲33.0	▲20.0	▲26.0	▲52.7	▲23.5
3月	▲20.3	▲9.6	▲21.7	▲35.2	▲10.0
見通し	▲25.0	▲22.5	▲13.0	▲35.2	▲25.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成24年3月の業況についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.3(前月水準▲33.0)となり、マイナス幅が12.7ポイント縮小した。

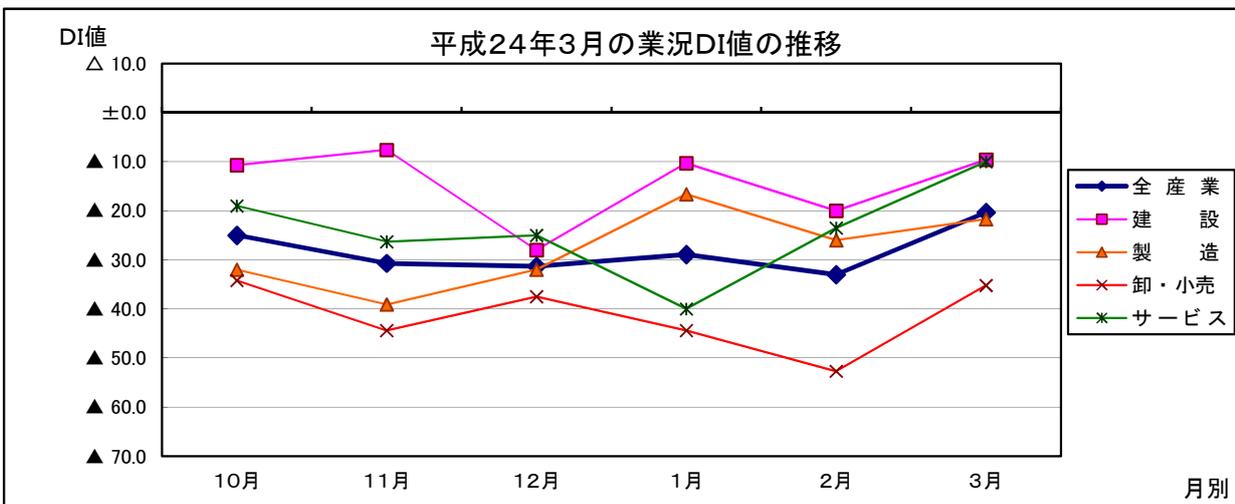
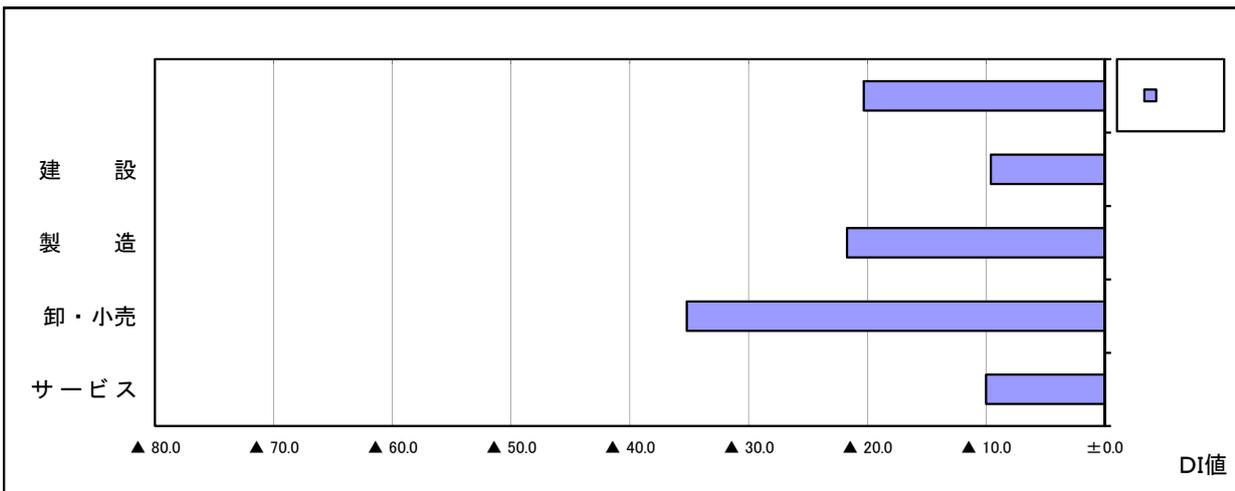
業種別では、前月水準と比べてマイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲35.2(同▲52.7)、サービス業▲10.0(同▲23.5)、建設業▲9.6(同▲20.0)、製造業▲21.7(同▲26.0)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲25.0(前月水準▲19.8)となり、マイナス幅が▲5.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲13.0(同±0.0)、卸小売業▲35.2(同▲30.5)、建設業▲22.5(同▲20.0)、サービス業▲25.0(同▲23.5)である。

平成24年3月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 10月	11月	12月	平成24年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲25.0	▲30.7	▲31.3	▲28.9	▲33.0	▲20.3	▲25.0(▲19.8)
建設	▲10.7	▲7.6	▲28.0	▲10.3	▲20.0	▲9.6	▲22.5(▲20.0)
製造	▲32.0	▲39.1	▲32.0	▲16.6	▲26.0	▲21.7	▲13.0(±0.0)
卸・小売	▲34.2	▲44.4	▲37.5	▲44.4	▲52.7	▲35.2	▲35.2(▲30.5)
サービス	▲19.0	▲26.3	▲25.0	▲40.0	▲23.5	▲10.0	▲25.0(▲23.5)



【平成24年3月の売上についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、±0.0(前月水準▲37.7)となり、マイナス幅が37.7ポイント縮小した。

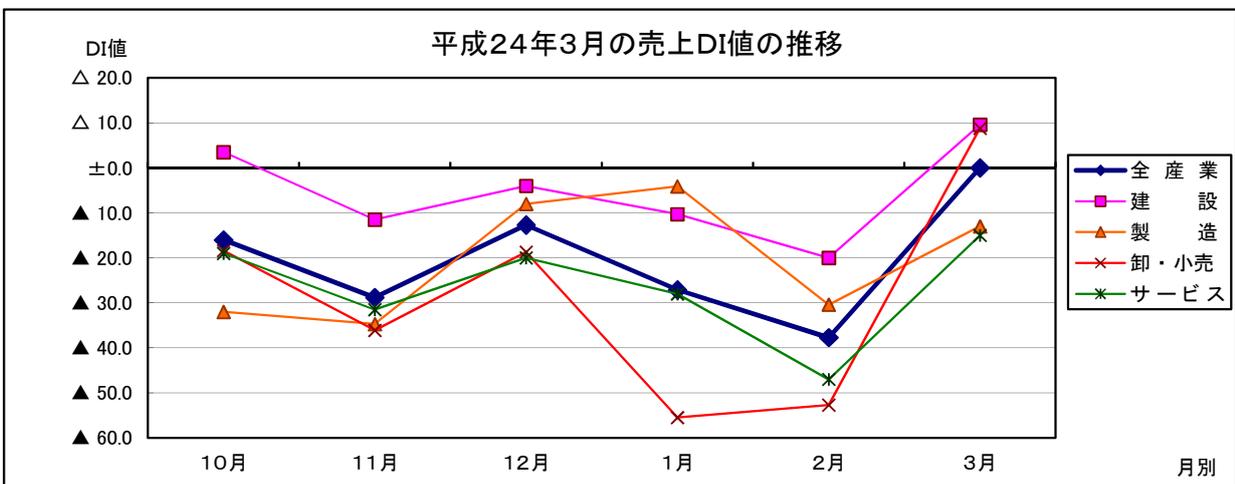
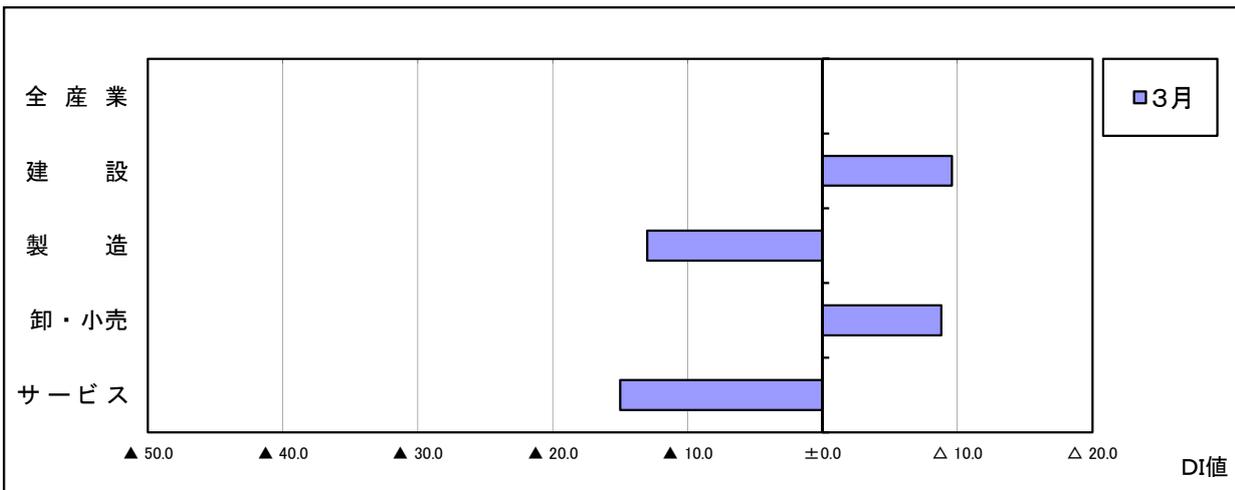
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、卸小売業8.8(同▲52.7)、建設業9.6(同▲20.0)である。特に、卸小売業は61.5ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲15.0(同▲47.0)、製造業▲13.0(同▲30.4)である。特に、サービス業はマイナス幅が32.0ポイントと大幅に縮小した。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.8(前月水準▲10.3)となり、マイナス幅が▲3.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同▲29.4)であり、マイナス幅が29.4ポイントと大幅に縮小する見通しである。変らない見通しの業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲35.4(同▲6.6)、卸小売業▲11.7(同▲11.1)である。特に、建設業はマイナス幅が▲28.8ポイントと大幅に拡大する見通しである

平成24年3月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 10月	11月	12月	平成24年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲16.0	▲28.8	▲12.7	▲27.1	▲37.7	±0.0	▲13.8(▲10.3)
建設	△3.5	▲11.5	▲4.0	▲10.3	▲20.0	△9.6	▲35.4(▲6.6)
製造	▲32.0	▲34.7	▲8.0	▲4.1	▲30.4	▲13.0	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲18.4	▲36.1	▲18.7	▲55.5	▲52.7	△8.8	▲11.7(▲11.1)
サービス	▲19.0	▲31.5	▲20.0	▲28.0	▲47.0	▲15.0	±0.0(▲29.4)



【平成24年3月の採算についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.8(前月水準▲39.6)となり、マイナス幅が25.8ポイント縮小した。

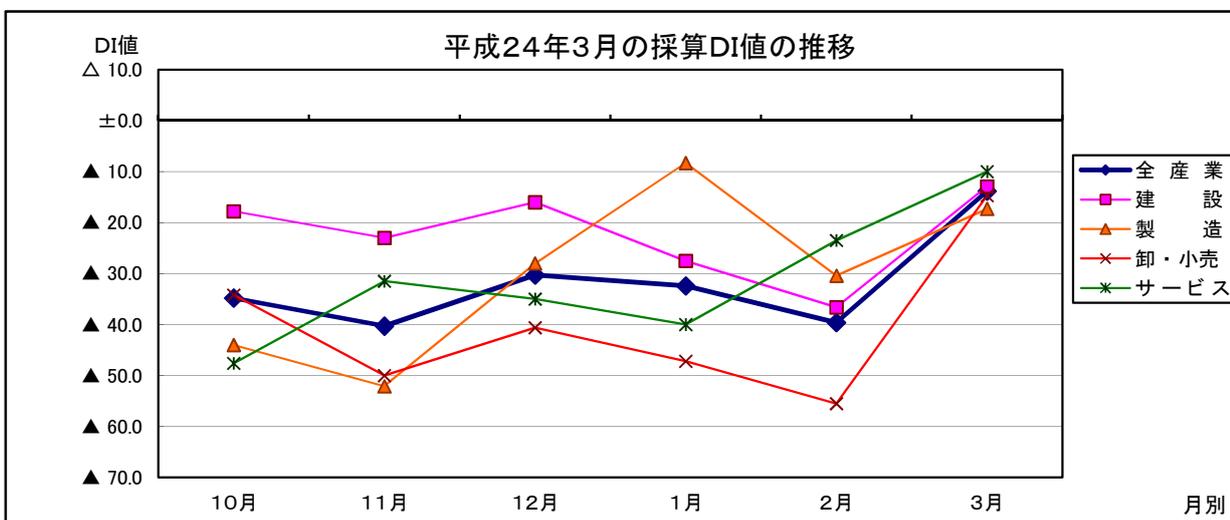
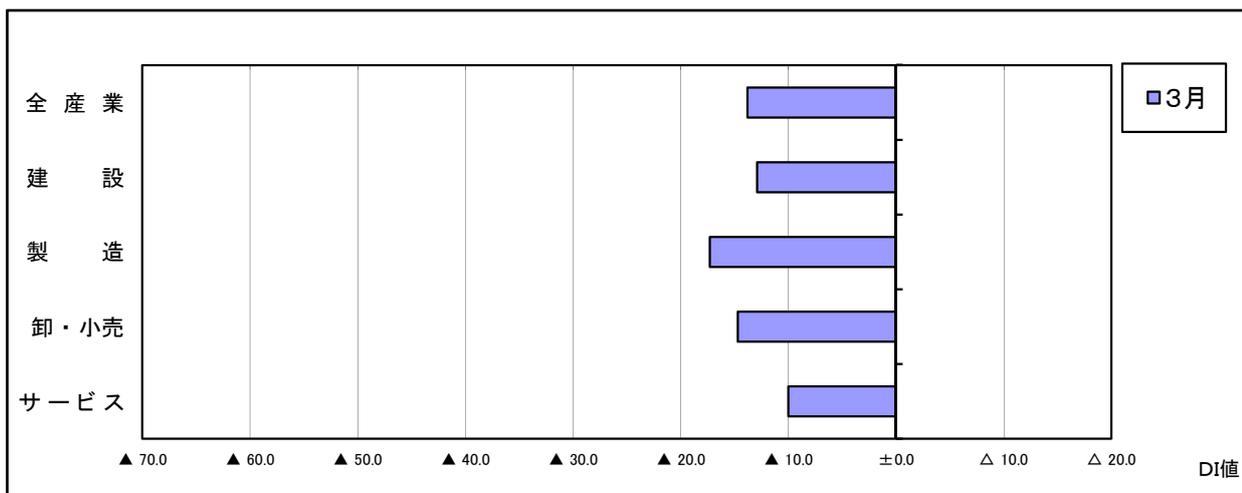
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲14.7(同▲55.5)、建設業▲12.9(同▲36.6)、サービス業▲10.0(同▲23.5)、製造業▲17.3(同▲30.4)である。特に、卸小売業はマイナス幅が40.8ポイントと大幅に縮小した。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.2(前月水準▲15.0)となり、マイナス幅が▲6.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同▲29.4)であり、マイナス幅が29.4ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲41.9(同▲10.0)、製造業▲8.6(同▲4.3)、卸小売業▲23.5(同▲19.4)である。特に、建設業はマイナス幅が▲31.9ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成24年3月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 10月	11月	12月	平成24年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲34.8	▲40.3	▲30.3	▲32.4	▲39.6	▲13.8	▲21.2(▲15.0)
建設	▲17.8	▲23.0	▲16.0	▲27.5	▲36.6	▲12.9	▲41.9(▲10.0)
製造	▲44.0	▲52.1	▲28.0	▲8.3	▲30.4	▲17.3	▲8.6(▲4.3)
卸・小売	▲34.2	▲50.0	▲40.6	▲47.2	▲55.5	▲14.7	▲23.5(▲19.4)
サービス	▲47.6	▲31.5	▲35.0	▲40.0	▲23.5	▲10.0	±0.0(▲29.4)



【平成24年3月の仕入単価についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.4(前月水準▲33.9)となり、マイナス幅が1.5ポイント縮小した。

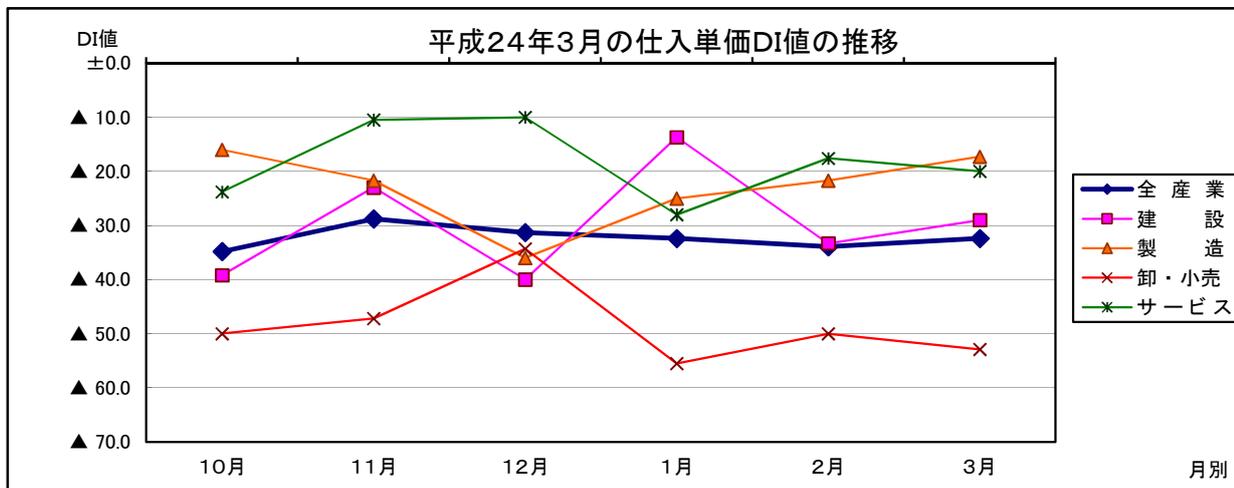
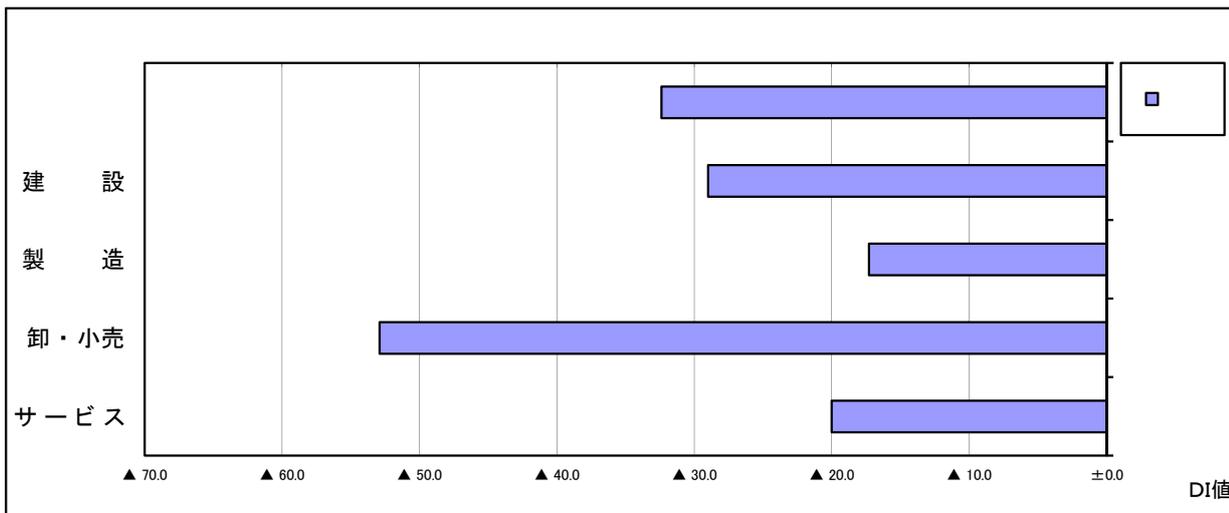
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲17.3(同▲21.7)、建設業▲29.0(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲52.9(同▲50.0)、サービス業▲20.0(同▲17.6)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲27.7(前月水準▲22.6)となり、マイナス幅が▲5.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲21.7(同▲13.0)、建設業▲25.8(同▲20.0)、卸小売業▲38.2(同▲33.3)、サービス業▲20.0(同▲17.6)である。

平成24年3月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 10月	11月	12月	平成24年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲34.8	▲28.8	▲31.3	▲32.4	▲33.9	▲32.4	▲27.7(▲22.6)
建設	▲39.2	▲23.0	▲40.0	▲13.7	▲33.3	▲29.0	▲25.8(▲20.0)
製造	▲16.0	▲21.7	▲36.0	▲25.0	▲21.7	▲17.3	▲21.7(▲13.0)
卸・小売	▲50.0	▲47.2	▲34.3	▲55.5	▲50.0	▲52.9	▲38.2(▲33.3)
サービス	▲23.8	▲10.5	▲10.0	▲28.0	▲17.6	▲20.0	▲20.0(▲17.6)



【平成24年3月の従業員についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、1.8(前月水準0.9)となり、プラス幅が0.9ポイント拡大した。

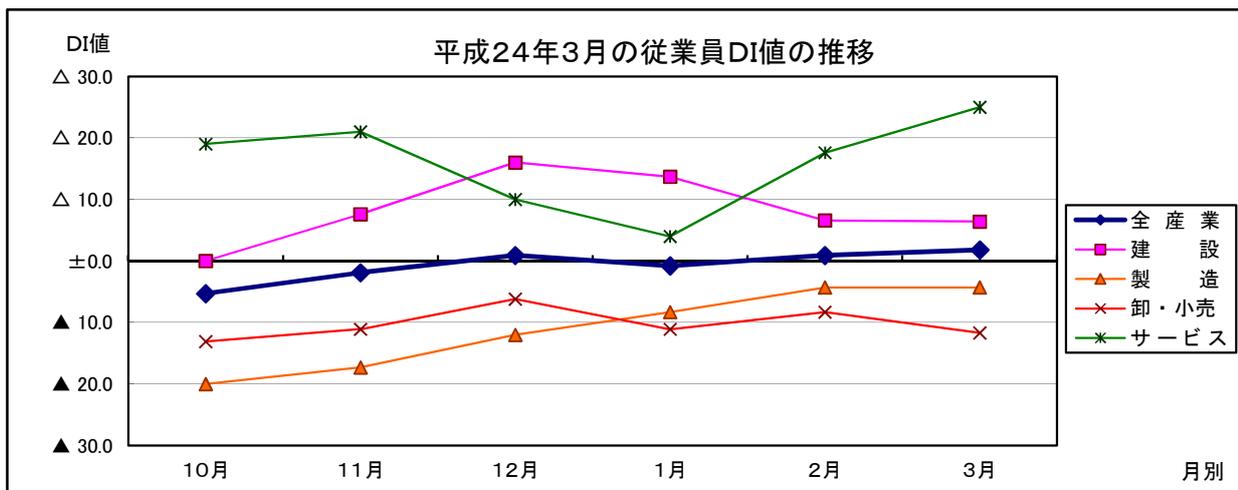
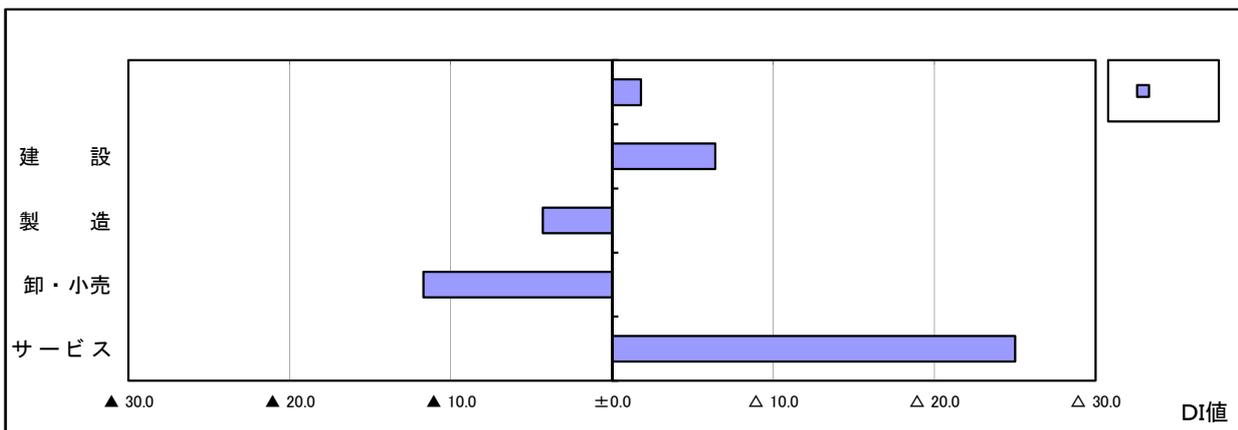
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業25.0(同17.6)である。変らない業種は、製造業▲4.3(同▲4.3)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業6.4(同6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲11.7(同▲8.3)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.5(前月水準0.9)となり、マイナス幅へ▲6.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業20.0(同23.5)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲9.6(同6.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲13.0(同▲8.6)、卸小売業▲11.7(同▲8.3)である。

平成24年3月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 10月	11月	12月	平成24年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲5.3	▲1.9	△0.9	▲0.8	△0.9	△1.8	▲5.5(△0.9)
建設	±0.0	△7.6	△16.0	△13.7	△6.6	△6.4	▲9.6(△6.6)
製造	▲20.0	▲17.3	▲12.0	▲8.3	▲4.3	▲4.3	▲13.0(▲8.6)
卸・小売	▲13.1	▲11.1	▲6.2	▲11.1	▲8.3	▲11.7	▲11.7(▲8.3)
サービス	△19.0	△21.0	△10.0	△4.0	△17.6	△25.0	△20.0(△23.5)



【平成24年3月の資金繰りについての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.0(前月水準▲16.9)となり、マイナス幅が4.9ポイント縮小した。

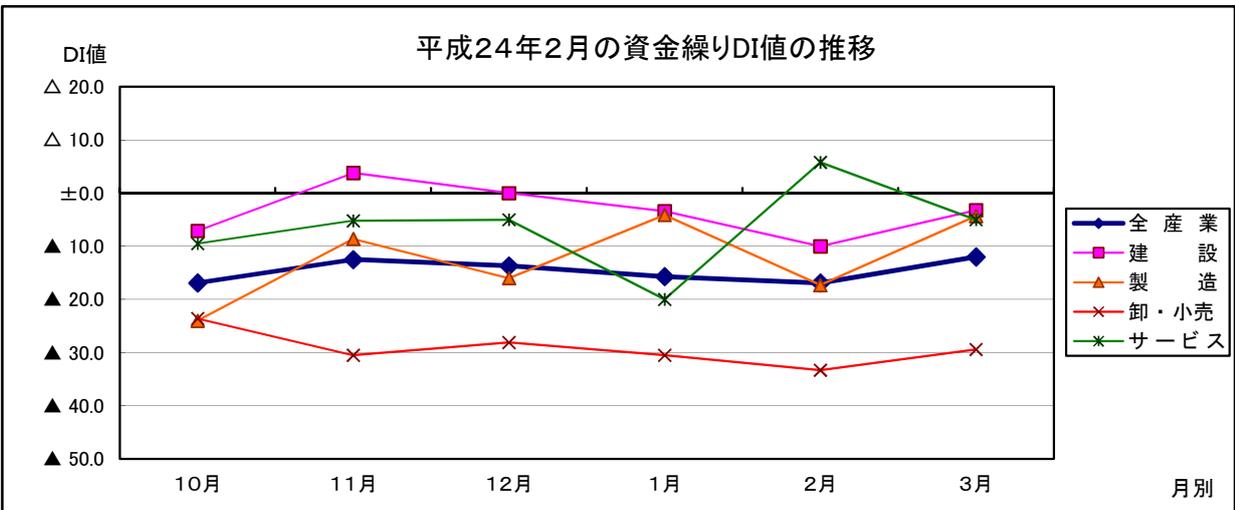
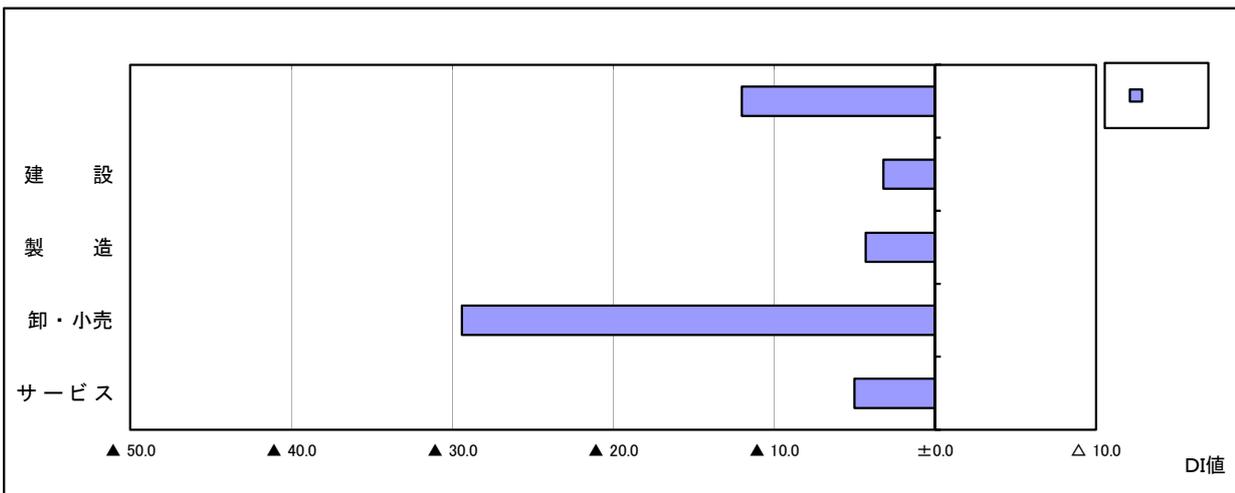
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲4.3(同▲17.3)、建設業▲3.2(同▲10.0)、卸小売業▲29.4(同▲33.3)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲5.0(同5.8)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.4(前月水準▲9.4)となり、マイナス幅が▲10.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲15.0(同±0.0)、卸小売業▲32.3(同▲19.4)、製造業▲13.0(同▲4.3)、建設業▲12.9(同▲6.6)である。

平成24年3月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	10月	11月	12月	平成24年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲16.9	▲12.5	▲13.7	▲15.7	▲16.9	▲12.0	▲19.4(▲9.4)
建設	▲7.1	△3.8	±0.0	▲3.4	▲10.0	▲3.2	▲12.9(▲6.6)
製造	▲24.0	▲8.6	▲16.0	▲4.1	▲17.3	▲4.3	▲13.0(▲4.3)
卸・小売	▲23.6	▲30.5	▲28.1	▲30.5	▲33.3	▲29.4	▲32.3(▲19.4)
サービス	▲9.5	▲5.2	▲5.0	▲20.0	△5.8	▲5.0	▲15.0(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	±0.0	▲ 13.8	▲ 13.8	▲ 21.2	▲ 32.4	▲ 27.7	△ 1.8	▲ 5.5
建設	△ 9.6	▲ 35.4	▲ 12.9	▲ 41.9	▲ 29.0	▲ 25.8	△ 6.4	▲ 9.6
製造	▲ 13.0	±0.0	▲ 17.3	▲ 8.6	▲ 17.3	▲ 21.7	▲ 4.3	▲ 13.0
卸・小売	△ 8.8	▲ 11.7	▲ 14.7	▲ 23.5	▲ 52.9	▲ 38.2	▲ 11.7	▲ 11.7
サービス	▲ 15.0	±0.0	▲ 10.0	±0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	△ 25.0	△ 20.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 20.3	▲ 25.0	▲ 12.0	▲ 19.4
建設	▲ 9.6	▲ 22.5	▲ 3.2	▲ 12.9
製造	▲ 21.7	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 13.0
卸・小売	▲ 35.2	▲ 35.2	▲ 29.4	▲ 32.3
サービス	▲ 10.0	▲ 25.0	▲ 5.0	▲ 15.0

【平成24年3月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況		業種
建設業	耐震補強に力を入れている	耐震工事	一般土木建築工事業
	材料の単価の上昇著しく採算が合わない。予算が厳しく業界は景気の上昇に期待しているが先行きは暗い	材料高騰 不採算 先行き不透明	電気工事業
	年度末という事もあり仕事量は問題なかったが天候不順により経費がかさみ思ったように利益は出なかった	年度末 天候不順 経費増加	塗装工事業
	仕事の受注は増えているが年度末の為に作業員が不足している。現場管理の人間も不足している	年度末 受注増加 人員不足	塗装工事業
	年度末と雨の影響で相変わらず職人不足で忙しい。材料は確実に高騰しているのに工事単価は下落している。当然採算がとれない現場が多々あり以下に経費を削減するかが課題だが工期に合わせるために余分な出費が増えている。ただ今年度の忙しさは震災の影響で工事の進行遅れによる忙しさ、業者職人不足による忙しさだったようでもある。次年度は物件も小さく件数も減っている見積もり状態	年度末 人員不足 材料高騰 工事単価下落 不採算 経費削減 震災の影響	その他の職別工事業
	原油価格の高騰によるガス料金への影響が発生。節電意識の高まりによる省エネの影響もガス販売量に影響が出る	原油価格高騰 節電	ガス業
	3月は少し忙しくなりました	仕事量増加	塗装工事業
	公共工事において適正な価格が設定されているか問題である。	公共工事 適正価格	塗装工事業
	3月は毎年忙しく4月からはさほどではなく毎年の事です	仕事量不変	土木工事業
	畳張り替え工事(アパート含む)が増えたため増益。これから暖かくなるのもっと多くのお客様が畳工事をしたいと思ってもらえたらうれしい	仕事量増加 気候の影響	内装工事業
景気の悪い時に原発事故のダブルパンチで当分期待できず	不景気 原発事故の影響	その他の職別工事業	
製造業	原油価格の見通しが全く不透明で、今後の原材料価格の更なる高騰が不安材料である	原油価格高騰 先行き不安	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	問題点として、材料価格の上昇と電力費の値上げが経営を圧迫。一方で4月以降多少の受注増の情報あり	材料高騰 電力費値上げ 経営圧迫	金属素形材製品製造業
	大きな変化、好転へのきざしは見えない	業況不変 先行き不透明	その他の機械・同部品製造業
	年度変わり期であり、好転への兆しあり。今後は仕入れ単価増も予想される？具体的提示は今のところなし。	好転の兆し 仕入単価増加	酒類製造業
	材料が値上がりしたが売値は上がりず困っている	材料高騰	紙製容器製造業
	今月はサイン工事に関する仕事が増え、前年より多少売上が増加しました。イベント関係では柏の農業が風評被害にめげることなく活動しています。スポーツもレイソル、JXサンフワーズ等快勝しています。震災から1年経ちましたが少しずつ元気が戻りつつあるような気がします	仕事量増加 風評被害 スポーツでの活躍	印刷業
	売上高はやや増加しているが原油高による運搬費用の負担増加(ガソリン等の値上がり)がある。又今後経費負担増加(社会保険料や電力料金)が見受けられ、採算性の悪化が考えられている	売上増加 原油価格高騰 経費増加 採算悪化	一般産業用機械・装置製造業
	円安傾向は為替益を生むが、製品価格の下落傾向は続いており、厳しさが続くと思われる	円安 価格下落 厳しい業況	ガラス・同製品製造業
	一時的に受注ができた仕事は動いているが続くわけではない。昨年よりは良い	一時的な受注	建築用・建設用金属製品製造業
	景気回復の兆しありますが業界により好調不況の波が多くみられます	景気回復の兆し	その他の機械・同部品製造業
各原材料価格がアップした為、利益に影響出ている。電気料金値上げが先(10月)になり、とりあえずは一安心。先行きの見通しは5月までは良好だが、6月以降が全く見えてこない。	材料高騰 電力費値上げ 先行き不透明	紙製容器製造業	



【平成24年3月の業種別業界内トピックス】

サービス業	地元 町内会の集まり事多く 小宴会が有り多少売り上げは伸びたが、天候不順により野菜が高値、仕入れ単価上昇。	売上微増 天候不順 仕入単価上昇	食堂・レストラン
	宴会は、私立高校及び専門学校の謝恩会、祝賀会、学校関係の送別会が上手く獲得する事が出来、売り上げは近年になく良かった。宿泊は稼働は高いもののinetからの予約が多く予算は達成するも対予算で利益は厳しいものと思われる。ビジネス需要が大半を占めている事を考えるとビジネスは動いているものの各企業共に経費は抑えられていると思われる。重油(燃料)や野菜の値上げが利益を圧迫し始め、4月からの電気の値上げも気になるところである。	宴会好調 宿泊稼働率増加 ネット予約 ビジネス需要 燃料費値上げ 電力費値上げ	ホテル
	大口の注文は昨年並みに達成、ただし近年ネットでの販売が加速していますので業況は厳しい。包装などのサービスで差別化を推進していきたい。	ネット販売増加 厳しい業況 差別化	その他の飲食料点小売業
	気候が暖かくなり個人客の出足は好調。法人需要は7~9月の動きが鈍い	個人客好調 法人需要鈍化	旅行業
	顧客からのお問い合わせが減っているが、物件買い取り依頼は多くなっています。やはり放射能に対する不安が影響しています。早く安心できるような対策を願っています	問合せ減少 放射能の不安	不動産管理業
	取引先は有りがたい事に全国展開している企業なのでリスク分散をしており当社にまで影響が出る事はありませんでした。4月以降の消費回復に期待します	リスク分散	不動産賃貸業
	除染作業、成果の段階で行政サイドからの安全宣言等のアクションが必要と感じます	除染作業	不動産賃貸・管理業
現況は相変わらずで悪く、来年度を迎えるのが恐ろしい状況です。予想した通り、人余りが始まりました。終身雇用が必至です。ただ、分野的に最新の技術を有するIT技術者は不足していますが、当然ですが、居るわけない。4月からし烈な戦いが始まりそうです。	業況悪化 人員余剰	ソフトウェア業	

◎天候の影響

- ・ 年度末という事もあり仕事量は問題なかったが天候不順により経費がかさみ思ったように利益は出なかった 塗装工事業
- ・ 畳張り替え工事(アパート含む)が増えたため増益。これから暖かくなるのでもっと多くのお客様が畳工事をしたいと思ってもらえたらうれしい 内装工事業
- ・ 婦人服業界においては昨年の震災以降の売上げが激減したので昨年対比では大幅売上増を期待したのだが気候不順もあり春物は飛ばされてしまいそうなりゆきである。未だに冬物の需要があり春物は伸びてこない。この数年来春秋物の販売期間が短くなりつつあるが今年はその典型になりそう。4月下旬になればインナーは半そで需要になるので春物在庫をどう減らすかを腐心している。いずれにしても昨年3月からの伸び悩みは問題である 婦人・子供服小売業
- ・ 3月度、初旬から入店客数は前年を上回る推移となったものの、気温がなかなか上がらず、主力の衣料品で春物購入マインドが低く、羽織り物が中心の動きとなり売上高は伸び悩んだ。 その他の各種商品小売業
- 寒さが続き、これまでの低温や日照不足など天候不順の影響もあり生産者は順調な育成ができず市場取引において主要品目の高値が続いています。また3月は昨年の東日本大震災と原発の起こった月であり1年経過したことにより若干の売上高の増加は見込まれます。しかし柏市内の生産物では風評被害が完全に取り除かれていないようです 食料・飲料卸売業
- ・ 小宴会が有り多少売上げは伸びたが、天候不順により野菜が高値、仕入れ単価上昇。 食堂・レストラン

◎震災の影響

- ・ 今年度の忙しさは震災の影響で工事の進行遅れによる忙しさ、業者職人不足による忙しさだったようでもある。次年度は物件も小さく件数も減っている その他の職別工事業
- ・ 昨年は震災がありその後の消費低迷が続いたので今年は前年比増を期待したが見込みが外れた 菓子・パン小売業
- ・ 前年は震災直後の買いだめ需要があったが今年はそれらが無いため売上は前年を下回っている その他の各種商品小売業
- ・ 昨年は震災の影響で食品が特需のように伸びましたが今年はそのような事は無く昨年と比較すると食品が特に悪い。昨年衣料品が大きく悪化したが春物が気温が低い事もあり今年も期待できない。春物はもう終了のタイミング その他の各種商品小売業
- ・ 東日本大震災の復興の兆しも無く依然として低迷が続いている 一般機械器具卸売業

◎材料高騰

- ・ 材料の単価の上昇著しく採算が合わない。予算が厳しく業界は景気の上昇に期待しているが先行きは暗い 電気工事業
- ・ 問題点として、材料価格の上昇と電力費の値上げが経営を圧迫。一方で4月以降多少の受注増の情報あり 金属素形材製品製造業
- ・ 材料が値上がりしたが売値は上がりず困っている 紙製容器製造業
- ・ 各原材料価格がアップした為、利益に影響出ている。電気料金値上げが先(10月)になり、とりあえずは一安心。先行きの見通しは5月までは良好だが、6月以降が全く見えてこない。 紙製容器製造業
- ・ 日銀の政策転換により原材料価格の上昇が進むと思われるが価格に転嫁できるかが今後のキーポイントとなりそう 建築材料卸売業

## 平成24年3月のCCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.3に対し、「CCI-LOBO」が▲23.9で、柏の方がマイナス幅が3.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が±0.0に対し、「CCI-LOBO」が▲13.0で、柏の方がマイナス幅が13.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業でいずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・サービス業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲13.8に対し、「CCI-LOBO」が▲22.0で、柏のほうマイナス幅が8.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設・卸小売業・サービスで、建設業・卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.4に対し、「CCI-LOBO」が▲29.0で、柏の方がマイナス幅が3.4ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が1.8に対し、「CCI-LOBO」が▲3.3で、柏の方がプラス方向へ5.1ポイント良い。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、建設業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.0に対し、「CCI-LOBO」が▲16.9で、柏の方がマイナス幅が4.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、建設業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。

# 平成24年3月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 20.3	 9.6	 21.7	 35.2	 10.0
CCI LOBO	 23.9	 33.6	 15.3	 30.0	 18.1

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ±0.0	 9.6	 13.0	 8.8	 15.0
CCI LOBO	 13.0	 19.7	 5.5	 18.1	 11.4

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 13.8	 12.9	 17.3	 14.7	 10.0
CCI LOBO	 22.0	 34.0	 15.2	 25.7	 18.2

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 32.4	 29.0	 17.3	 52.9	 20.0
CCI LOBO	 29.0	 35.8	 35.9	 19.7	 29.4

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 1.8	 6.4	 4.3	 11.7	 25.0
CCI LOBO	 3.3	 6.3	 4.7	 3.3	 1.1

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 12.0	 3.2	 4.3	 29.4	 5.0
CCI LOBO	 16.9	 23.5	 10.6	 18.3	 19.2

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (3月速報)

調査期間：平成24年3月16日～23日

調査対象：全国の415商工会議所が2820業種組合等にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

#### 業況DIは足踏み状態が続く

3月の全産業合計の業況DIは、23.9と、前月から+9.5ポイントと大幅に改善。僅かではあるが超円高の是正、株高を受け、経済活動に明るい兆しが見えたことに加え、復讐需要の波及効果が徐々に及び始めたことが要因。2011年10月から続いてきた35前後での足踏みから抜け出す結果となった。しかし、比較対象の前年同月(2011年3月)は東日本大震災直後で業況DIが落ち込んだ時期。実態は原油等の原材料価格の上昇・高止まりなどを背景に厳しい状況が続いている。

先行きについては、先行き見通しDIが26.6(今月比2.7ポイント)と、悪化する見込み。第三次補正予算による復興需要の本格化への期待に加え、海外経済の改善や超円高の是正により輸出等に緩やかな回復が見られるものの、取引先企業の海外移転による受注の減少、原油等の原材料価格の上昇・高止まりの長期化が予想

されることから、先行きは慎重な判断となっている。

産業別にみると、業況DIは、建設業は悪化、卸売業はほぼ横ばい、他の3業種はマインナ幅が大幅に縮小。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

**建設業**「技能工の不足が続いており、人件費が高騰している」(一般工事業)、「住宅産業では大手・中堅メーカーが低価格で受注するため、価格競争が激しい」(一般工事業)、「住宅エコポイント制度の再開に伴いエコリフォームについての相談が増えている」(建築工事業)

**製造業**「円安傾向により取引先の鉄鋼メーカーに輸出増加の動きが見られる。また、エコカー補助金により自動車関連産業向けの取引にも期待」(耐火物製造業)、「タイ洪水からの挽回生産もあり好調」(自動車部品製造業)、「得意先の生産・販売拠点の海外移転が加速している。円高が是正されつつあるが、多少の円安ではこの流れは止まらない」(自動車部

### 品製造業)

**卸売業**「鮮魚(特にマグロ)の仕入値が上昇しているが販売価格に転嫁できない」(水産品卸売業)、「原油高騰の影響で仕入価格が毎週上昇している。上昇分を価格転嫁できず採算が悪化」(化学製品卸売業)、「円安になったことで仕入価格が上昇してきている」(自動車卸売業)

**小売業**「前年3月の震災以降、消費が落ち込んでいたが、その反動により最近はやりが伸びている」(百貨店)、「旬の食材の売上が好調で前年比105%と堅調に推移」(スーパー)、「寒さのため、春物衣料の動きが鈍い」(商店街)

**サービス業**「歓送迎会シーズンであり期間限定の学生プランなどが好調」(飲食店)、「エコカー補助金により新車販売が好調なため、車検台数が減少」(自動車整備業)、「3月は軽油価格が1.約10円の値上げ。一カ月で80万円の経費増となっている」(運送業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
10月	▲34.3	▲30.7	▲26.2	▲38.8	▲37.6	▲39.4
11月	▲35.5	▲30.1	▲29.2	▲32.9	▲44.1	▲38.0
12月	▲34.9	▲34.0	▲24.8	▲35.9	▲42.5	▲37.7
1月	▲31.9	▲29.0	▲25.6	▲22.3	▲40.3	▲36.2
2月	▲33.4	▲29.0	▲33.1	▲21.6	▲2.8	▲19.5
3月	▲23.9	▲33.6	▲15.3	▲27.4	▲30.0	▲18.1
見通し	▲26.6	▲37.3	▲23.9	▲21.3	▲29.8	▲21.2

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI